はじめ多数来賓の御臨席を

東郷町制施行記念号



全 景 庁

に至っているのであります 村制を実施して以来、今日私の町は明治二十二年町 一平方粁で東臼杵郡南部に 、面積ニー八・六 弘 が村である場合と町であ 上の運用に村と何等変りは町制施行が行財政等形式 機会にも厚く御礼を申し述 過ぎたるものはなく、こ べる次第であります ます。私達の喜びはこれ

町東郷を建設するため長期

式典を挙ぐることに致しま

とすることにつき記念の

式

辞

町 長

小

難な事情にあったわけであ の流動に伴いまして益々困 等の改修が着々と進み、吉線をはじめ日向下三ヶ 来例」に適合するに至った で舗装がつづき時間に 町としての要件を定め

実施し既に事業を完了し 業の近代化を図ることで、 のは何をおいても農林

町議会議長

高

して愈々その重要性は高 く、果すべき役割は極めて

畜産を主幹作目として営農 々津地域開拓パイロ の開拓をなしミカン、養蚕 業を推進し、町内約一千 の改善をすることに致して ります。林業方面にお にその記念の式典が挙げら じめ来賓多数御臨席の 誕生し県知事代理官殿をは ますことは欣快に堪えま

の間に於ても町制施行

か決議をみましたの

林業構造改善事業を実施す しては昭和四十四年を第 と御理解のもとに実現でき 堪えないところでありまし て深く感謝します 自治進展の上に誠に慶賀に の方々のあたたかい御指導 しては県御当局、県議会 願であった村を町に衣替え 年を記念する事業であり、 き理想像を描き新しい町づ 迎えこの機に私共は多年の 上に立ち新しい町のあるべ ま明治百年の意義ある歳を くりをなすことこそ明治百

かれては、実地を調査検討でありますが、県当局に於

年度とする三ケ年に亘

され御理解ある指導と助

たゞき亦県議会の

会に提案となり満場一致を 刀により三月七日の定例議

規の事業として町道の整備

業、教育施設として坪谷画、山陰地区簡易水道

って決定をみたのであ

を企図しているのでありま

小学校に屋内体育館の建設

て村勢の充実に微力を捧げ 郷村として生まれまして、年町村制の施行とともに東わが東郷町は明治二十二 その美風を伝えて村造りに 治の確立のため親から子に 先輩は教育をすすめ、 茲に八十年、その間私達の るに当り心からお祝い申し 行記念式典が執り行なわれ集のもとに、東郷町町制施 あり又二十一世紀に生きる一御挨拶とい 明治二百年を指向する途で 本日ここに町民多数ご参

辞 宮崎県知事 黒

木

博

い日とするためには町で当一ます。

入郷地域

にお願いを申し上げまして

く御指導を賜わりますよう

どうか将来ともによろし

爾来八十年の歳月を経て今 もに東郷村として発足し、 顧みまするに当町は明治

を受けたことにより、さら 発展の一途をたどって参っ 平和な営みの中で村民生活 養蚕業の一中心地として、 岡新産都市区域として指定 たのでございますが、昭和 の交通上の要路として林業 二十九年にい 上をつゞけ村勢もまた たり、日向延

を克服し将来発展の基礎と って重なる本町の悪条件 押可获易

に春光も麗らかに照りはえた。

の雲もなく晴れわたり東郷町の誕生を祝福するかのよう 百余名臨席の下に盛大に行なわれた、この日空には一片 四月一日町制施行の記念式が役場庁舎前の広場で来賓三

なることを信じて疑わない 生と郷土を同じくするとい 年私達のふるさとに生を享 若山牧水先生は明治十八 けられました、私たちは先 たなびきて居り

う誇りと感激を常に胸に抱

ささか無辞を述べて式辞と 導御協力を切に希望してやの皆様の今後に於ける御指 県御当局をはじめ御来臨

ある東郷町が生まれました その願望実現への第一歩で 期待をかけています。特洋々たる町の将来に大き をしのび遺徳を讃え感謝を な功労のあった先賢の遺業 捧げる頌徳祭の日でありま

誇りと責任を深く感じ健康 誕生であるだけに感激一入 深いものがあります。 を新たにした次第でありま きも相携えて邁進する覚悟 にして明るく豊かな町、文 今こそわれ等八千町民は い町の建設に、老いも若 このよき目に東郷町の を記念し新しい発展を期し 実も積極的に図られてお が逐次進行し、都市的型態 そのすがたを変えようとし て永年の念願でありました としての発展が期待されて 業の指定等の営農基盤の充 て、農業構造改善事業の実 を整えて参りました。さら も新産都市建設の進行、 町制を施行されますことは り、今後さらに地方自治体 ているのでございましてと 水先生を生んだ山脈に囲ま いるところででざいます この時にあたり明治百年 これらの動きに相俟っ

次第でございまして、町ご びはさぞかし大きいものが 当局はじめ皆様のおよろこ 誠に意義深いことと存ずる このよき日を真に意義深 した町制を施行されて今日の発展をみる 機会に長年に亘り にはまことにで同慶 あげる次第であり

通算第213号

昭和44年4月10日 発 行 所 宮崎県東日杵郡 町



【上】真新しい東郷町役場の標札を掲げる小野町長

【中】役場前に建てられた祝賀のアーチ 【下】記念式典寸景 東郷町の誕生にあたり当東郷町の発展にご尽力された関町の発展にご尽力された関町の今後のご発展を祈念いたしまして祝辞といたし 意を表しておよろこび申し でありここに敬意と感謝の でありここに敬意と感謝の

111 越 石 男

県議会議長

れ町勢発展の実を挙げられ

と責任を感じかがやく明日の めにこの憲章を定めます。 わたくしたちは東郷町に生き 、家庭を愛し青少年を健かに育てましょう 時間を大切にしきまりを 健康でねばり強く働きま まごころで交わり親切を つくしましょう りましょう 町づくりのた る喜びと誇り きましょう

す。

ので健勝とで多幸をお祈り

すとともに町民のみなさま を重ねてお祝い申しあげま

終りに新生東郷町の前途

当り県議会を代表して一言して記念式典を挙行されるに、関 さまに対し心からおよろこ じめ多くの先賢を輩出してく敬意を表しますと同時に 想されるのでありますが、七千六百有余名の町民の皆 由来この地は若山牧水をは七千六百有余名の町民の皆 由来この地は若山牧水をは 大田発展のため努力された をとげるためには前途なお ことばを申し上げ 物してきわめて重要なる役割の を果たす位置にあり、当町口 ものがあると思うのであり、当町口 ものがあると思うのでありなます。ときあたかもわが国の年えの躍進の第一歩をかよい豊かな町として本町がさらに次のを一にして本町がさらに次のを上にして本町がさらに次のをとげるためには前途なお 産業、 じめ多くの先賢を輩出して、 県が県政の重要な柱 は必ずやこの困難を克服さ民のみなさまの英知と根性 これを受け継ぎおられる町 都市圏内であって、 として建設をとり進めてお ります日向延岡地域新産業 が県政の重要な柱の一つ申すまでもなく当町は本 交通、文化の要路と

日の感激をもって一体となずるのでございますが、今ずるのでございますが、今 は期して待つべきものがあ まれますならば当町の発展 に取組 ろうと信じます

では、この記念すべき式典において自治功労者に対する表彰が行なわれましたが、この栄を受けられた各位は多の栄を受けられた各位は多のでは、この記念すべき式典にお



吹もかすみの一の尾鈴の山の一

発と社会、経済、文化の要は水力発電、山林資源の開

僅か十数年で伊東氏は島津

その後豊臣秀吉が全国を

った)に高橋氏を封じ

崎県に復し

ことに耳川の豊かな水量

谷城はその頃日向の北の護

戦国時代の頃伊東氏が日

として築いたのであるが

を有し、往時から純農村と

光明媚な耳川の清流をいだ雄姿を浮かべ、その麓に風

日の私達の郷土がうちたて 親は子に子は孫に伝えて今

代社会は漸次近代社会えと

を象徴するかの如き冠嶽のありますが、その姿も本町

を置き、近代的住民自治

て隣接市町村との交通も繁

盤をなす工業用水の取入口ら更には新産都市建設の基

体の充実を図るため、

百姓一揆が起てった。それ

て東郷村役場を小野田に設

ここに初めて東郷

伴い各戸長役場を廃

る青竹のやぶの深みに

祝

辞

日向市長 児 東郷町とし町制施行の運び 玉 袈 裟

に当り、日向市民を代表し 行祝賀の式典を挙行される て一言お祝いのことばを申 さまのご努力に対し敬意をしいたします。 となったのであります。 この喜びの日を迎えるま

表するとともに各位のご熱意が必ずや東郷町発展の大 意が必ずや東郷町発展の大 整をなしとげるに違いない と確信いたし、私共また相 とでは選進することをお誓い 申し上げます。ここに東郷 町の前途を祝福しご列席の を祝福しご列席の を祝福して列席の

雄

た縄文土器が越表地区か数千年前の人たちが使用

生式時代、古墳時代など古 を造り産業を興し文化をす 遠い祖先はこの地を拓き道 浦氏の後が牧野氏、牧野氏 代の大庄屋の管轄で八重原 の後が内藤氏で明治維新ま 田野、仲瀬を支配 重原と西迫野内は田

明治四年七月廃藩置県と同 も翌二年延岡藩領となり藩 かれたが、坪谷村下三ゲ 任命されてその管下に 明治二年に藩主が藩知事

| 一 長役場は小野田戸長役場 | 場が設けられたが後八重原 崎具管轄、明治九年鹿児島 の管轄となり、明治六年



斐

昭和二〇年一一月~

林



昭和「六年一一月~二〇

年一一月

畜産

原

治



奈

熊

一六年



高





新





甲 村

定

郎

自治功労で

一月

松 明治二二年五月~二六年 郎

一五年五月~二一六年二月~一

大正八年三月~一二年一二月

面積 二一八・六一平方 七六七一人

党信 二九六台 二九六台

って東郷村に建設的でし

区の鉄筋二階建の役場、

町の象徴は山陰地

稿など数百点を展示し全国館が開館、牧水の遺品、遺

した目標を持たせ、

新

象徴するのが中央公公共施設、これらの公共施設、これらの

ない

民にとってこのひとことはてすげなく断わられた。村

表情をひ

表情をひときわ明るくして 会の手で生家黄に牧水記念十年目の町昇格は、村民の たあと翌四十二年には顕彰二十二年町村制施行以来八 「年に県文化財に指定され」「毎日まりたけるというじるしい、明治」高める。牧水の生家は四十二括気もいちじるしい、明治「高める。牧水の生家は四十二括気もいちじるしい、明治「高める。牧水の生家は四十二

いちじるしい、明治のしい面目をみせ、

に住む人たちの文化意識を そしてこのことが、東郷

資力(昭四三年度課税台帳 町民年間総所得額 町民資産総額

生 産 頭 数 一、 養み 甘水 農業収穫量 四五、 俵 kg 電報(一日)発信

全ワクチン投与 一七七年短 四八〇人 生 平均三六八千円 平均四四四千円八一四、九七〇千円

めに努力した。着々と町

東郷村は五年間、目標の

なるための資格づくりに

本町の現況

民生委員 現前前 議議村 員長長

感謝状を受けた方

通

自動車通行量(一日) 電話加入者数

九〇、九四四 M

バス乗客数(年) 三輪車「○

トラック 平月車 1 小型トラック

んで県への申請をしたが、 早くも町への昇格をもくろ 日の夢だった。三十九年に 宮崎日々 装され町並みも立派になるの山陰までの県道は拡幅舗

東郷は語れないー

歌人若山牧水は東郷のシ

聞の 誕 記事から

日本脳炎 四五、 九九九九

百日ぜき、

四 二七

きもいぜん防ぐことはでき て行き中堅クラスの出かせ すぎ) 現象に見舞われてい 峽のおくに おもいやるかのうす青き 町財政の圧迫要因は われのうまれ

生産の外最近はミカン、クとともに永遠に歩み続けるでいる。人口七割は農林業 る目標ともなっている。新なとそのツチ音が響き渡っかおり高い文化の町をつくなっとそのツチ音が響き渡っかおり高い文化の町をつくなっとそのツチ音が響き渡っかおり高い文化の町をつくなっと ででは、これらの全国からの参観者も多いででは、いま着、数の念が強く、このことがでの建設、いま着、数の念が強く、このことが、村内では牧水の歌を知る共施設、これらの全国からの参観者も多い。 ことになるだろう。 とともに永遠に歩み続ける 手」ぶりを発揮した。 「文化財のに

## 黒 昭和和四二 昭和三〇年五月~四二年四月 年年四四 松 現

在月

歴代議

会議

寺

原

島

診をした。<br />
当然のように町<br />
開いて内部の体裁固めと打

村当局は昨年、村内各区

ったと高らかに内外に意思 って町制施行の条件はそろ

単次が目ざましい。養蚕でもその実績

農業構造改善事業

く村当局も自信を持

昭和二一年一一月~二二年五月

代表で明治百年記念事業委

株道六キロの建設、ブルド でシイタケ乾燥小屋の新設 でシイタケ乾燥小屋の新設

橋

口

和

昭和二二

ぜん立ては、こうして全部

尾鈴の山の 祖先の美風 うけついで 仰ぐひとみも はればれと 町 民 いただきを

そよかぜわたる 耳川の 平和に満ちた この町を 清きながれと とこしえに われらの われらの むつまじく

賛えて今日も はげもうよ

土に生きる よろこびを

野山の幸に 抱かれて 力をあわせ 守ろうよ 豊かに伸びるふるさとの かがやく明日の しあわせを 人の心も ほがらかに われらのわれらの

んなで共に

われらの

東郷町

昭和四一

一年五日

現

高

郡

(上) 東郷町の前途を祝しての乾杯 (下) よろこびにわく山陰の町

寺

原



新

新

昭和二六年五月~

十日の臨時村議会で町制施

二月七日に県議会に追加議行議案を満場一致で議決、

は開拓パ

ったことである。す

二十六戸が参加を

れは新しい町の未来像で築に盛る「新酒」は?そ

急速に動いた。そして二月

い町の開発を展望す

◇古い言葉に「新酒はすべ

べし」とあります。

「東郷町」という新しい

とつの夢多き材料

イロット事業に村

している。

年明けとともに、

発の一番

手として日の目を

町づくり、産業開

い町造りに力を合せてはいだき豊かで明るく美し

もつ私たちの町。ここに 町、秀でた多くの先輩を

案として上程されて議決さ

申し込ん

昭和二八年五月~三〇年四月 戍

昭和三八年五月 勝 ~四二六年

現在)一、八二一世帯、日計七、六七一人(三月一日 地、入郷地区の《入り口》 はいり、農林産物の供給の、延岡新産都市の圏内に としての要所を占めて 六五七人、女四、○一四人新東郷町の人口は男三、 いり、農林産物の供給 一四人

悩みは過疎

が目標と小野町長は町制の 供給基地として発展するの 供給基地として発展するの は望めない、むしろ新産都 意欲はこのいくつかの事業 農業開発に徹する新町の たるものがある。「新産都 新町にとって悩 かにしている。 い、ことで

のしあわせをみんなで共 のしあわせをみんなで共 ◆その未来像をうたいあげ 「郷土を愛し高い文化をています。町民憲章は かけています。 きずきましょう」と呼び にきずこうよ」とうたっ たのが「町民歌」であり しょう う理想郷東郷町を一 「みんなで築きましょ

♦待望の 寿ぎましょう 点 両手を高くあげて

年継続で林業構造改善事業 事業費七千八百万円、三カを終わり、新年度からは総

対象面積一万八

◇山紫に水清き私たち

「東郷町」が誕生 滴